

水産業競争力強化緊急施設整備事業事後評価報告書

北海道水産林務部漁業管理課

| | | | | | |
|------------|-------------|---|-----------------------------------|---------|------------|
| 目的 | | 水産資源の持続的な利用・管理の推進 | | | |
| 目標 | | 資源増養殖目標 | | R 2 - 7 | |
| 事業実施主体 | | (一社) 根室管内さけ・ます増殖事業協会 | | | |
| 実施地区 | | 根室北部地区 | | | |
| 実施期間及び目標年度 | | 実施期間 | | 目標年度 | |
| | | 令和2年度 | | 令和5年度 | |
| 助成金額 | | 14,245千円 | | | |
| 事業計画の内容 | | <p>当該地区におけるサケ資源は、人工ふ化放流計画に基づく増殖事業を持続的に実施してきたが、近年は来遊数が減少しているため、広域浜プランにおいて「サケの放流尾数の安定確保及び回帰率の向上」を目標に掲げている。</p> <p>しかし、薫別ふ化場は地域のサケ稚魚生産施設として重要な役割を担っているものの、施設構造が古く、飼育環境の悪化に伴う種苗の生残率や回帰率の低下などから、資源増大の支障となっている。</p> <p>このため、薫別ふ化場を整備し飼育環境を向上することで、生残率や回帰率の高い健康なサケ稚魚の生産が可能となり、サケ資源の増大による漁業者所得の向上や漁村の活性化にも繋がることから、地域水産業の競争力強化が図られるものである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・養魚池兼飼育池棟上屋整備 <p>(添付資料1) 事業概要 (添付資料2) 令和元年度事業計画 (添付資料3) 財産管理台帳</p> | | | |
| 評価 | 取組の目標 (KPI) | | | | |
| | | 基準年 | (平成29年時点) 漁業所得 | 7,458千円 | |
| | | 現状値 | (令和5年度末) 漁業所得 | 2,241千円 | 増加率 -70.0% |
| | | 目標値 | (令和5年度末) 漁業所得 | 8,478千円 | 増加率 13.6% |
| | 成果目標 | | 施設整備によるサケ稚魚ふ上率の向上 (ふ上率0.7%の向上) | | |
| | 現状値 | (令和5年度末時点) 稚魚ふ上率91.0% | | | |
| | 目標値 | (令和5年度末時点) 稚魚ふ上率90.1% | | | |

| | |
|-----------------------|---|
| (1) 現状値の説明 | 令和2年度に施設を整備した薫別ふ化場においては、供用開始後は継続して事業が行われ、令和5年度末時点の稚魚ふ上率は91.0%となっており目標を達成している。 |
| (2) 地域への経済効果（ハード事業のみ） | 種苗生産能力の向上により今後も継続して健康な稚魚を放流できる体制が整っていることから、当該地区におけるサケ資源造成に大きく貢献し、回帰年における漁家所得向上も期待される。 |
| (3) 所見 | 施設整備計画のとおり施設整備を行い、供用開始後は有効に利用されていることから、成果目標は達成されている。 |
| (4) 評価機関への意見等 | |
| 今後の改善方向等に関する分析 | 整備した施設を今後も継続して使用し、安定的なサケ稚魚の放流を実施していくことにより、サケ資源の増大と地域水産業の競争力を強化する。 |

水産業競争力強化緊急施設整備事業事後評価報告書

| | | | 北海道水産林務部漁業管理課 | | |
|----------------|--|---|--|---------|------------|
| 目的 | 水産資源の持続的な利用・管理の推進 | | | | |
| 目標 | 資源増養殖目標 | 28-1 | | | |
| 事業実施主体 | （一社）根室管内さけ・ます増殖事業協会 | | | | |
| 実施地区 | 根室北部地区（羅臼町） | | | | |
| 実施期間及び目標年度 | 実施期間 | 目標年度 | | | |
| | 平成28年度 | 令和5年度 | | | |
| 助成金額 | 45,792千円 | | | | |
| 事業計画の内容 | <p>根室北部地区におけるサケ資源は減少傾向にあり回帰率が低迷しているため、広域浜プランにおいて「サケの放流数の維持及び資源増大」を目標に掲げている。</p> <p>しかし、湯の沢ふ化場は根室北部地区のサケ稚魚生産施設として重要な役割を果たしているが、施設構造が古く飼育環境による生残率や回帰率の低下などがサケ資源増大の支障となっている。</p> <p>このため、湯の沢ふ化場を整備し、飼育環境を改善することで、生残率や回帰率の高い健康なサケ稚魚の生産が可能となり、サケ資源の増大による漁業者所得の向上や漁村の活性化にも繋がることから、地域水産業の競争力強化が図られるものである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・飼育池棟：屋根及び外壁改築 ・飼育池：改良 <p>（添付資料1）事業概要 （添付資料2）平成28年度事業計画、令和2年度改善計画協議書 （添付資料3）財産管理台帳</p> | | | | |
| 評価 | 取組の目標（KPI） | | | | |
| | | 基準年 | （平成25年時点）漁業所得 | 4,058千円 | |
| | | 現状値 | （令和5年度末）漁業所得 | 8,425千円 | 増加率 207.6% |
| | | 目標値 | （平成30年度末）漁業所得 | 4,915千円 | 増加率 21.1% |
| | 成果目標 | 施設整備によるサケ稚魚放流数の維持、健康な種苗生産による回帰率向上（放流計画数11,240千尾の維持、漁獲数247千尾（回帰率2.2%）） | | | |
| | | 現状値 | （令和5年度）放流計画数15,977千尾、漁獲数457千尾（回帰率2.9%） | | |
| | | 目標値 | （令和5年度）放流計画数11,240千尾、漁獲数247千尾（回帰率2.2%） | | |
| | （1）現状値の説明 | <p>平成28年度に施設を整備した湯の沢ふ化場においては、供用開始後は継続して事業が行われ、令和元年度末時点の放流数は15,977千尾となっており、目標の11,240千尾は達成したが、漁獲数については本施設整備後に放流した稚魚が親魚として回帰するのが令和2年度以降であるため、漁獲数については未評価となっていた。</p> <p>令和2年度の改善計画策定後は、継続して仔魚の生産に取り組んだことにより、令和5年度の放流尾数は15,977尾、漁獲数は457千尾となり目標を達成した。</p> | | | |
| | （2）地域への経済効果（ハード事業のみ） | これらの種苗生産能力の維持により今後も継続して健康な稚魚を放流できる体制が整っていることから、当該地区におけるサケ資源造成に大きく貢献し、回帰年における漁家所得向上も期待される。 | | | |
| | （3）所見 | <p>施設整備計画のとおり施設整備を行い、供用開始後は有効に利用されたことから、放流計画数については目標を達成したが、漁獲数については本施設整備後に放流したサケ稚魚が回帰するのは令和2年度以降であるため、漁獲数については未評価となり改善計画の策定に至った。</p> <p>改善計画策定後も継続して事業を実施し、安定した種苗生産が行われたことから、成果目標を達成することができた。</p> | | | |
| （4）評価機関への意見等 | | | | | |
| 今後の改善方向等に関する分析 | 整備した施設を今後も継続して使用し、安定的なサケ稚魚の放流を実施していくことにより、サケ資源の増大と地域水産業の競争力を強化する。 | | | | |

水産業競争力強化緊急施設整備事業事後評価報告書

北海道水産林務部漁業管理課

| | | | | |
|------------|-------------|---|-----------------------------------|-----------|
| 目的 | | 水産資源の持続的な利用・管理の推進 | | |
| 目標 | | 資源増養殖目標 | 30-5 | |
| 事業実施主体 | | (一社) 日高管内さけ・ます増殖事業協会 | | |
| 実施地区 | | 日高地区（浦河町～様似町様似地区） | | |
| 実施期間及び目標年度 | | 実施期間 | 目標年度 | |
| | | 令和元年度 | 令和5年度 | |
| 助成金額 | | 53,075千円 | | |
| 事業計画の内容 | | <p>当該地区におけるサケ資源は、人工ふ化放流計画に基づく増殖事業を持続的に実施してきたが、近年サケの来遊が減少していることから、広域浜プランにおいて「サケ資源の維持増大」を目標に掲げている。</p> <p>しかし、日高幌別ふ化場は地域のサケ稚魚生産施設として重要な役割を担っているものの、施設構造が古く、飼育時の魚体のスレに伴う魚病の誘発から、健苗性や回帰率の低下を招き、資源増大の支障となっている。</p> <p>このため、日高幌別ふ化場を整備し飼育環境を向上することで、生残率や回帰率の高い健康なサケ稚魚の生産が可能となり、サケ資源の増大による漁業者所得の向上や漁村の活性化にも繋がることから、地域水産業の競争力強化が図られるものである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・養魚池、飼育池：新設 ・付帯施設：自動池清掃設備、浮上槽 <p>(添付資料1) 事業概要 (添付資料2) 平成31年度事業計画 (添付資料3) 財産管理台帳</p> | | |
| 評価 | 取組の目標 (KPI) | | | |
| | 基準年 | (平成30年時点) 漁業所得 | 3,128千円 | |
| | 現状値 | (令和5年度末) 漁業所得 | 4,252千円 | 増加率 35.9% |
| | 目標値 | (令和5年度末) 漁業所得 | 3,454千円 | 増加率 10.4% |
| | 成果目標 | | 施設整備によるサケ稚魚生産率の向上 (稚魚生産率1%の向上) | |
| | 現状値 | (令和5年度末時点) 稚魚生産率99.4% | | |
| | 目標値 | (令和5年度) 稚魚生産率99.0% | | |

| | |
|-----------------------|---|
| (1) 現状値の説明 | 令和元年度に施設を整備した日高幌別ふ化場においては、供用開始後は継続して事業が行われ、令和5年度末時点の稚魚生産率は99.4%となっており目標を達成している。 |
| (2) 地域への経済効果（ハード事業のみ） | 種苗生産能力の向上により今後も継続して健康な稚魚を放流できる体制が整っていることから、当該地区におけるサケ資源造成に大きく貢献し、回帰年における漁家所得向上も期待される。 |
| (3) 所見 | 施設整備計画のとおり施設整備を行い、供用開始後は有効に利用されていることから、成果目標は達成されている。 |
| (4) 評価機関への意見等 | |
| 今後の改善方向等に関する分析 | 整備した施設を今後も継続して使用し、安定的なサケ稚魚の放流を実施していくことにより、サケ資源の増大と地域水産業の競争力を強化する。 |